不良boy

joint501

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
不良ｂｏｙ

【Ｎコード】
Ｎ８５０２Ｔ

【作者名】
ｊｏｉｎｔ５０１

【あらすじ】
ごく普通の不良高校生原田祐介があることをきっかけに色々な事に巻き込まれ、仲間と共に乗り越えていく青春学園物語です。初心者なので駄文ですが、それでもいいという方はみてくれるとうれしいです。

登場人物

人物設定

名前：原田（はらだ）　祐介（ゆうすけ）

性別：男

年齢：１７歳

身長：１６８ｃｍ

詳細：この小説の主人公。
喧嘩は強いが、面倒臭がりなので自分から喧嘩を売ることはまず無い。
仲間思いの一面があり頼りになる。

名前：宮岸（みやぎし）　桜（さくら）

性別：女

年齢：１７歳

身長：１５６ｃｍ

詳細：祐介の幼馴染で、喧嘩は意外に強い。
サボリ癖がありよく屋上でサボっている。
料理はそこそこ出来る。
運動神経は良い。

桐島（きりしま）　智樹（ともき）

性別：男

年齢：１７歳

身長：１５８ｃｍ

詳細：祐介とは中学の頃からの親友。
身長は小柄だが、その分すばしっこく運動神経もそこそこ良い。
いつもはやる気が無いが、やるときはやるので結構信頼されている。

登場人物（後書き）

初心者で初投稿なので駄文ですが、よろしくおねがいします。

第1話：平凡な日々（前書き）

久々の投稿です。

第1話：平凡な日々

「何か面白いことねーかなー」
俺は学校の屋上でつぶやく。
「今も十分に面白いだろー」
隣りに座っている中学からの親友の『桐島　智樹』は俺にだるく言葉を返してきた。
俺は世間で言う不良の類に入っていて、現に今も授業をサボって智樹と一緒に屋上で話をしている。
俺がつぶやいた言葉でわかるように、俺は今猛烈に退屈だ。何か良い案が浮かぶかもしれないと思って考えてみているが、一向にいい案が出てこない。こんなときに面白いことを考えてくれる奴がいたら良いのにと心の中で思ってみるが、思ったからといって出てくるわけでもなくずっとボーっとしてみる。
「夏休み近くになると、面白いことが起きるらしいよー」
いつからいたのかわからないが屋上の入り口から急に声が聞こえた。
俺に声をかけてきたのは、俺の幼馴染である『宮岸　桜』だ。
「何だよ、その面白いことって」
俺は、入り口にいた桜に聞いた。
「この学校の敷地内にある秘密の隠し部屋ってやつが現れるんだよ」
桜に聞いたはずなのに、隣にいた智樹から返事が返ってきた。
「何でお前がそんなこと知ってんだよ。てか、俺は桜に聞いたんだけど」
「誰が答えても良いじゃん。まあ、俺がそんなこと知っているのは、俺の情報網がすごいからだよ」
最後の方は、ドヤ顔で答えられたがそこは無視しよう。
面白いことがしたかった俺にとってこの話はとても好都合だった。
「ワクワクするぜ。早く夏休みに近くならねーかな」
俺は、めちゃくちゃ興奮していた。

というか、なぜ智樹は最初俺が質問したときにいわなかったのか疑問に思ったが今の俺にはそんなこと同でもよくなっていたが・・・
「あ、でも祐介それを探すんだったら今から用意しないと」
智樹が思い出したかのように言う。
「そんなにやばいのか？隠し部屋ってやつは」
「いや、そうじゃなくて隠し部屋を見つける過程で喧嘩をしないといけないから」
「そんなの大丈夫だろ。俺は喧嘩強いからな」
「まあ自信があるなら良いけど」
「そうと決まったら、早速準備しようぜ」
俺は張り切って言うが、
「学校が終わってから準備しろや」
桜に突っ込まれてしまった。

このときはまだ3人とも、あんなことになるなんて思ってもいなかったんだ。

第1話：平凡な日々（後書き）

小説書くの難しいですね。
桜ちゃんがぜんぜん喋ってないですね。これから喋らしていきたいと思います。
投稿、遅くなるかもしれませんが気長に見て下さい。

第2話：情報収集（前書き）

またまた駄文ですが、見て頂けたら光栄です。

第2話：情報収集

学校が終わった後・・・
「準備しようと思ったけどさー、何をどう準備すればいいんだよ」
俺は思い出したように2人に聞いてみる、けど思った答えとは違った。
「まずは情報収集だよな」
「情報はもう集まってるんじゃねーのー。お前、自分の情報網はすごいって言ってたじゃねーかよ」
俺は智樹が言っていたことを思い出しながら、聞いてみる。すると横から、
「それとこれとは違うんだよーいくら智樹の情報網がすごくてもこの件はもともと情報が少ないから」
桜が智樹をフォローするように俺に言ってくる。
「何で情報が少ないんだよ」
「決まってるだろ。なんせ隠し部屋を見た奴はごくわずかしかないからな。詳しく言うなら全校生徒の約3%ぐらいかな」
こんなに少ないなら絶対話なんか聞けないだろ。そう心の中で思いながら智樹に聞いてみる。
「そんなに見たことがある奴が少ないなら、情報なんか集まらないだろ」
「いやいや、見たことがある人が少なくても、情報を持っている人はけっこう多いから。そういう人たちから情報を聞いてくればいいんだよ」
桜が詳しく説明してくれる。もうそろそろ情報収集に行ったほうがいいかなと思う。
「詳しくわかったところで、情報収集を始めるか」
「いやいや、もう放課後だし人が少ないだろ」
智樹が言った言葉によってもう夕方になっているのに気づいた。

「明日の昼休みまでに情報を集めて屋上で話し合えば良いんじゃない」
いつになく桜の提案がものすごくよかった。
「その方法があったか。じゃあ、明日の昼休みに屋上な」
俺は二人に伝える。
「おう。わかった」
「わかった」
丁度話が終わったころに3人の分かれ道につく。
「じゃあこの辺で」
桜からの言葉でいっせいに解散する。
「じゃあ、またな」
「おう、じゃーな」
明日から3人の本格的な行動が始まる。

第2話：情報収集（後書き）

ぜんぜんうまく書けないですね。
でもがんばっていきたいですね

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8502t/

不良boy

2011年10月27日23時11分発行